

## 【議事録】第1回 岡崎活性化本部乙川リバーフロント推進部会

日 時：平成26年7月9日（水）14時00分～16時55分  
会 場：市役所福祉会館6階 大ホール

### 1 開 会

事務局より開会のあいさつ。

### 2 市長あいさつ

市長欠席のため、中安副市長が代理であいさつを行った。

### 3 部会長あいさつ

部会長より下記のとおり、あいさつを行った。

- ・ 今年度からこの場の名称が「乙川リバーフロント部会」から「乙川リバーフロント推進部会」となり、より責任・自覚が求められると考える。より当部会への想いを強くしなければならぬと感じている。
- ・ 「地域資源である乙川リバーフロントを活かす」という方向性は市民も含め異議のないことであると思うが、今年度一つの大きな目標として、「誰のために、どのような目的で遂行されるか」を意識していかなければならない。
- ・ 歴代市長等の思いも含め内田市長が端を発したことが市民の共感を得て、さらに誇りを醸成し愛着を持ってこの事業が継続・成長を続けるプロジェクトになってほしいと考える。
- ・ メンバーも新たになり、忌憚のない意見があつて当然であり、多様な考えと英知を集めて一つの方向性につなげていければと思う。実りの多い部会としたい。

### 4 議 事

#### ① 推進部会の位置づけ・進め方

- ・ 岡崎活性化本部より、検討方針について説明を行った。
- ・ 副部会長より、「乙川リバーフロント地区整備の目指す姿と事業方針（案）」の説明を行った。（「段階的な市民との接点をつくる」「まちの文脈を読み解き、空間デザインと活用イメージを活かす」「空間体験の連続性・関係性をデザインする」という3つの指針案等を発表）。詳細は、別紙「乙川リバーフロント地区整備の目指す姿と事業方針」参照。

#### 〔意見交換〕

##### 部会長

- ・ 目指すべき目標はシビックプライドの醸成や社会性という要素が大きいと考える。

##### 事務局長

- ・ 今後の具体的な議論を進めるにあたって7月～8月に協議会を設立したいと考える。  
→了承された。

## ② 歩行者空間の整備と交通規制

- ・ 岡崎市より、資料－1 及び資料－2 の説明を行った。

### 〔意見交換〕

#### 副部長

- ・ どの舗装が好きか嫌いでは判断が難しい。「岡崎城はこのイメージ」というようにゾーンごとのイメージを判断する必要がある。

#### 部長

- ・ このような議論の前に、歩行者空間をどうしていくべきかという方針の部分の議論をすべきである。

#### 事務局長

- ・ 方針の部分は昨年度の部会で議論されており、部会員が各々胸に落としてきたのが前提であり、現在は仕様など具体の選定の段階に入っている。もう一度そこへ戻ると昨年に戻る事となってしまい、時間的制約の問題がある。

#### 岡崎市

- ・ 市としての現状の方針について説明する。歩行者空間としては、平成 27 年度から 5 年間で整備したい。プロムナードなどは人が楽しく歩けるようにしたいと考える。
- ・ 人道橋と中央緑道については歩道部分を拡張し、歩くだけではなく、イベントも実施できるようにしたい。
- ・ 籠田公園も整備することにより、東岡崎駅から岡崎公園方面、お城まで歩けるような動線をつくりたい。

#### 部会員

- ・ 副部長の資料で、籠田公園から人道橋までの道路は戦後復興の平和の象徴ということだが、岡崎の場合は江戸時代の平和という考え方もできる。そのことをストーリー性として整備に付与していく考えが必要。平和から商業が発展したように、賑わいのある商店などができるとうい考える。

#### 部会員

- ・ 岡崎は歴史性のある日本的な素材感を大切にしながら、現代性を兼ね備えた都市デザインのイメージであると考えている。舗装材のイメージとしては西三河事務所前歩道の御影石が良いと思う。プロムナードは連続性が大切であり、場所によって異なるべきではないと思うし、今ある良い部分を活かすということも必要。

#### 部会員

- ・ 車道は維持管理も考え、よくある黒のアスファルトでも良いのではないかと。歩道は途中で色が変わらない方がよい。色が変わると歩行者が不安になる。例えば城まで続くと観光客にも優しい。

#### 部会員

- ・ インターロッキングを使用している場所が結構あると思うが、補修時（又は開削時）に同じデザインの資材が手に入らず、アスファルトになっているところが多い。観光産業を目指すなら同じ間違いはしてはいけない。

#### 部長

- ・ 素材の選択には「時間の経過とともに変わらない」という視点も大切。共通の認識をもって欲しい。

## 副部長

- ・ 連続性や一体感は大事だと感じた。一方で、場所ごとのデザインや、歩道と車道との素材の組み合わせ案などがイメージできる資料があるといいと思う。どういう空間にして、訪れた人にどういう風に見られたいか、という意識がコストや維持管理と同じように重要である。
- ・ 個人的には岡崎城は暖色系、中央緑道、殿橋～明代橋間は近代風な石畳などがよいと思う。

## 部会員

- ・ プロムナードの位置付けが抜けていると思う。昨年度の乙川リバーフロント部会では町歩きが楽しい空間ということで、「車を排除して、歩行者を優先した道にする」という話があったと思う。その場合、歩道と車道を明確に分けるより、同様のテクスチャーにすることで一体性のある舗装にすることが望ましいと思う。但し、機能性の面で、切れ目や少しの模様の違いで車道と歩道とを分けるのが望ましいと思う。

## 岡崎市

- ・ 全て車を通行止めにするのは今後すぐにはできそうにない。道路幅が十分でない部分もあるが、狭い場所についても歩行者スペースを確保するため、車道と歩道とを分けた。地域の利用のために車道部分を残す事も必要と考える。

## 事務局長

- ・ 時間軸で物事を考えていくことが必要であると思う。補修や交通状況の変化についても対応できるような素材としていければと考える。

## 部会長

- ・ 資料3を見て思うが、現在、車と歩行者との共存は難しいということ認識すべきである。現状、歩行者優先の整備は無理であるが、10年、20年先を見据えて、方針をたてるべきと考える。

## ③ 照明計画

- ・ 岡崎市より、照明検討について状況説明を行った。
- ・ 事務局長より、配布資料「照明計画」P1 に関する説明を行った。
- ・ 部会員より、配布資料「照明計画」P2～6 について説明を行った。

## 部会員

- ・ もっとも大切にしていることは以下の3点である。

### (1) 「安心と安全のための光」

周辺の人々の存在や段差が認識できる明るさを確保する。河川敷は暗闇となる場所を出来るだけつぐらない。女性でも安心できる明るさとする。

### (2) 「岡崎の品格を現す意匠性」

照明の色は、岡崎に来た人が「自宅のリビング」を感じていただけるイメージ。暖色系の発熱色で統一する考え。歩行空間や観光ホスピタリティ・エクステリア施設、サイン計画等と密接に関係する。

### (3) 「景観・環境への配慮」

まち・河川等の景観を阻害しない配置、大きさ、素材、色等とする。環境への配慮としてLED使用。維持管理が容易なものとする。

<以下、照明計画デザインについて配布資料「照明計画」についての説明>

- ・視点1の「潜水橋周辺河川敷」について  
埋め込み照明はランダムに配置し、乙川上流にある鳥川の蛍をイメージした。川のほとりの照明は階段下に埋め込み、潜水橋から吹矢橋まで連続して配置。殿橋は既存の照明を利用。欄干の下ライトは「ぼんぼり」をイメージ。
- ・視点2の「殿橋から岡崎城間のプロムナード」について  
背の低い行燈(あんどん)をイメージした照明。階段もライトアップ。また遊歩道も埋め込み型照明及びガーデンライトのような低い照明を入れる。
- ・視点3の「殿橋から新人道橋」について  
視点2と同様。新人道橋は計画段階であり、殿橋、明代橋に準じる。
- ・視点4の「明代橋から殿橋間右岸プロムナード」について  
木が多いため、少し背の高いポール照明を配置した。道路上のベンチ下にも照明を配置した
- ・視点5の「プロムナードから中央緑道」について  
河川敷と一体感のある照明で邪魔にならない配置とする。木は傷んだものを除いて、植樹を行う。ポール照明は20m間隔を一つの基準として配置する。
- ・視点6の「明代橋から新人道橋」  
視点3と同様。
- ・視点7の「吹矢橋公園」について  
ポール照明は公園側に配置。プロムナードにベンチを配置しベンチ下にも照明を配置。

## 〔意見交換〕

### 部会員

- ・ かなり明るくなり、夜間でも回遊してもらえるとという印象である。ただし、つくってすぐはよいが、「維持管理が安定的に可能なのか？予算や耐久性の面も考慮し可能か？」というところが実感である。
- ・ 河川敷の遊歩道は自転車が通るところでもあり、歩行者との兼ね合いをどうしていくかについて関心を持ってみたい。

### 部会員

- ・ 商店街でイルミネーションを行っている、市民の方から、光が木の成長阻害になるのでは？という指摘が1年に1回程度ある。水面を照らすということで、水生生物など環境への影響は問題ないか。

### 部会長

- ・ 照明計画の検討方針の三つの方針の一つに環境というキーワードを入れている、その辺りは今後、生物の影響も含めて検証する必要があると考える。

### 岡崎市

- ・ 殿橋・明代橋の照明・ライトアップ機材は老朽化が進んでおり基本的には取り替える方針。100周年には間に合わせたいと考えている。
- ・ 照明を設置する上での制約の話として、中央緑道、公園については自由度が高い。河川敷は洪水もあり、耐用性について課題がある。また、堤防プロムナードに照明の基礎など構造物を設置するのも問題がある可能性がある。今後、実施へ向けてそのような課題があるところをご考慮いただきたい。
- ・ プロムナードは石張りをイメージして絵をかいていただいたと思うが、歩道と車道を石板

の大きさを変えることで分けており、より具体的なイメージが湧いた。

#### 部会員

- ・ 防犯的なところを言えば、明かりはあった方がいいと思うが、今のイメージをみるとちょっと明るすぎる印象である。もう少し風景を取り込んで考えていただきたい。例えば夕暮れに照明器具が目立ってもだめだと思し、満月の明るさを楽しむといった「五感で感じられる」という要素も大切にしてほしい。

#### 部会長

- ・ 「五感で感じられる」ということから、四季に対応する照明計画についても考えていきたい。

#### 副部会長

- ・ 乙川のもっている現在の特性を配慮した計画であるため非常に良いと思った。全体的に一体感をもった照明計画だが、逆を言えば変化をつけることも可能であると考え。人道橋と中央緑道でメリハリをつけ、中央緑道側を明るくし康生への動線を示すこともできる。季節によって変えるなど、変化をつけることでよりメリハリがあり空間体験としても魅力的なものがつくれると考える。

#### 部会員

- ・ 殿橋、明代橋の橋上の照明が暗いと感じる。橋上の照明についても考えていただきたい。

#### 岡崎市

- ・ 橋上の照明については「道路照明」であるため、道路管理者である愛知県との協議が必要。親柱上の照明も含め殿橋、明代橋については今後県と協議していく。人道橋については、ご指摘のとおり、考慮していきたい。

#### 部会員

- ・ さくらまつりの照明について説明。ぼんぼりは桜に2, 3灯ずつつけている。

#### 事務局長

- ・ さくらまつりなどのイベント時の仮設の照明との取り合いも今後調整する必要があると考えている。花火の際は照明を消せることなどが必要と考える。

#### ④ 新人道橋の活用について

- ・ 岡崎市より、人道橋について市で検討中の状況（位置、規模など）の説明を行った。
- ・ 岡崎市より「イベント時の道路幅イメージ」の説明を行った。

#### 〔意見交換〕

#### 岡崎市

- ・ 現在、公園橋としての整備を予定しているので、道路橋に比べイベント等利活用方法としては自由度があると考え。

#### 事務局長

- ・ 配布資料「新人道橋および中央緑道スペース 利活用イメージカレンダー」について説明、別紙参照。今後組織する「乙川リバーフロント協議会」を窓口として想定している。皆様からもアイデアをいただき、多くの方々に利用していただきたいと考えている。

#### 岡崎市

- ・ スライド「イベント時の道路幅イメージ」を用いて全国の橋やイベント等の事例を紹介した。

## 岡崎市

- ・ 新人道橋の配置について、下水道管支障のため中央緑道中心延長線上へ配置することは難しいが、中央緑道との一体感を持たせるため、東側歩道を広い幅員とし、それと新人道橋の位置を合わせ、さらに同程度の幅にする方向で検討している。

## 事務局長

- ・ 伝馬通が幅 13.5m 程度であり住民はイメージがつくと思う。リブラ前のプロムナードは道路であり、利用をする場合、警察から歩行者の通行帯として 3.5m 以上とることを指導された。16m 幅の橋であれば使える幅としては 13m 程度かなという印象。動線は直線でなくても対応できると思う。

## 部会員

- ・ 新人道橋のイメージ案について、配布資料「みんなのリビング otodoko」により説明。
- ・ 照明計画を考えた際も「乙川リバーフロント地区をどのようにしたいか」を考えた。そのコンセプトが「みんなのリビング」。市民も含めた来訪者にとってリビングを感じていただきたいという思いである。新人道橋もこの「みんなのリビング」をコンセプトにイメージ案を考えた。
- ・ 京都の鴨川にある川床を参考にし、「otodoko(乙床)」を考えた。
- ・ イベント時だけでなく日常時についても視覚的にうったえる存在があることで、人が集まるのではないかと考える。
- ・ 素材は「自然素材」を中心に、乙川リバーフロントアイデアコンクールのアイデアにもあった透明なアクリル等の素材を使用し、橋から乙川を眺める際に阻害にならないよう配慮した。
- ・ 都市のイメージは日常的な風景によって強くつくられると考える。そのイメージにお祭り等のイベントが断片的に補完していると考え。そのため、人が日常的に留まり佇む空間が作れないかと考えた。
- ・ 殿橋は昭和 2 年につくられ、近代土木遺産に指定されているため、大切に維持していきたいと考える。その西側には江戸時代を感じさせる岡崎城がある。明代橋も昭和 12 年につくられた。そこで、新人道橋は現代の 21 世紀の橋ととらえても良いのではと考える。21 世紀の岡崎につくる「人のための橋」は従来の橋の機能である「渡る」だけでなく「留まり、佇むことができる」橋とし、現代に架け渡すことが大切であると考え。
- ・ 環境に配慮したデザインとしては、床材に木板でも良いが、例えば屋上緑化のようなものができれば放射熱の低減等も期待できる。また岡崎市美術博物館の近くにあるミストシャワーや橋上緑化などができれば環境面でもアピールできると考える。
- ・ ほかに大切にしたいことは「ヒューマンスケールデザイン」。車ではなく人の大きさを基準とし、人の居場所をつくるということも中心に考えていきたい。
- ・ Otodoko(乙床)は強固なものではなくフレキシブルなもの。そのため、市民と一緒に作る等イベントにできればと考える。皆でつくり育てていき、額田産の木材を利用し、伊勢神宮の式年遷宮のように 20 年に 1 回木材を更新することで世代間で引き継がれていく。それが 10 年後、100 年後もそれぞれの世代で異なる乙床をつくるというストーリーをできればと考える。
- ・ 照明は前述のとおり、「歴史ある環境デザイン都市」としての「岡崎のリビング」としてぼんぼり風の白熱色の色で統一する。

- ・ 床の素材の一つとして御影石の床を使用してはどうか。イメージは西三河総合庁舎前の歩道。コストが影響する場合は、御影石に近い素材を洗い出し等で使用するのも良いと思う。
- ・ ランドスケープデザインについて、岡崎美術博物館や額田のわん Park にあるような芝やクローバーをグランドカバーとすることで、一年中人が佇むことができると考える。現在の乙川は草が生い茂り近寄り難い時期がある。その期間は人が近づかない。ランドスケープを変えていくことにより人が1年を通して人が訪れやすい環境をつくれるのではと考える。
- ・ おもてなしについては、乙床にオカザえもん等の石造を設置し、お出迎えをするといったことを考えた。
- ・ 乙床のバリエーションは、額田の木材を使っていくことが主ではあるが、場所によってはアクリル・竹・植物のツタ等の素材も考えられる。そういったことも市民も含め考えていきたい。
- ・ 乙床のフレキシブル性について、スケッチする上で想定した大きさは5m×5m。乙床のサイズは用途や場所によって変更することが可能。
- ・ 乙床の展開について、乙川リバーフロント地区の新人道橋以外にも展開したい。例えばベンチや船着場等が考えられる。ランチタイムの際にOLさんが集まって乙床でお弁当を食べたり、ビールをもって乙床で宴会を行ったり、様々な使い方ができる。市民のかたにとっても活用について考えるきっかけになるのではと考える。

#### 岡崎市

- ・ 乙床をテントの一種として仮設と考えれば実現の可能性は高いと思う。橋の床材のイメージは御影石または草を植えるのか。

#### 部会員

- ・ 中央緑道との緑の連続性として芝生など緑がいいと思うが、技術的・施工上等の問題があれば今後検討が必要だと思う。作成したスケッチの橋のイメージは20m幅で描いている。木板部は災害時の緊急車両の通行帯として片道6mを想定している。

#### 事務局長

- ・ 市長の想いとしては床のイメージは木であるがどうか。

#### 岡崎市

- ・ 橋の素材というよりも、otodokoのコンセプトは面白いと思った。芝生でもよいかは、技術的な検証が必要になるため、この場での回答は難しい。

#### 部会長

- ・ 人道橋は多様な考え方ができる。共通認識として、人道橋を何のためにつくるかを押さえることが重要である。第一に回遊性の向上。次に、イベントなど状況の場をつくる、そして乙川リバーフロント周辺の景観を楽しむ、というところは共通認識を得られていると思う。それ以外の使い方などについては色々とあると思うので、それらを当部会で明らかにしていく必要がある。
- ・ 個人的な想いを言えば、3.11東日本大震災以降、希望学というところに興味があり、希望につながるような仕掛けとして人道橋が関わることができれば良いと思う。

#### 部会員

- ・ 橋の価値として「駅付近にイベント空間ができる」ということがあると思う。今から、どういう人をまきこめるか、ということを考えていく必要がある。そこそこ儲ければ続くが、

持ち出しが多くなればイベントが途絶えることになる。例えば、朝顔市やホオズキ市などのイベントをつくり、その朝顔やホオズキを育てることを依頼すると、巻き込まれた人もそこそ稼げて楽しいという関係が生まれるのではないか。100周年に向けて、どのような人を巻き込むかを考えて動いていく必要がある。

#### 事務局長

- ・ 今後は、どこにでもあるのではなく、岡崎独自のイベントを考えていく必要があると思う。部会員には回遊性という動線の面でご協力いただきたいと思う。

#### 部会員

- ・ まちづくり会社としては、空き店舗を減らすというところを重要視している。回遊性ができれば、出店者に対して魅力がでてくる。駅からの動線はかなり重要となる。
- ・ イベントの許認可を行うところが一般の人にはよくわからない。許認可を出すところが公にわかるような、協議会が早く立ち上がらないといけないと思う。

#### 事務局長

- ・ 協議会をつくり、民間側に事務局をつくることでプロモーションをしながら活動していきたい。

#### 岡崎市

- ・ 協議会は県なども関係してくる。手続きがスムーズにいくような仕組みをつくりたいと考えている。

#### 岡崎市

- ・ 人道橋の設計スケジュールについて説明。
- ・ 8月末には予備設計を終え、今年度末には詳細設計を終える予定である。

#### 事務局長

- ・ 部会で間に合わない場合は個別にお聞きして調整していきたい。

#### 副部長

- ・ 橋梁予備設計終了が8月末とのことだが、今回部会員が提示した新人道橋の案はまだ反映可能なのか。

#### 事務局長

- ・ 不可能なことはない。今後調整していきたい。

#### 副部長

- ・ 人道橋のデザインについて部会で話されることはないのか。リバーフロントとして関心の高い部分であり、スケジュールがあることも理解している。可能な範囲で意見を盛り込んでいただければと思う。何か触れないようにしている感じであるが。

#### 岡崎市

- ・ 確定しているのは、橋脚数と床板に木を用いる事、幅が15～18m前後であること。

#### 部会員

- ・ 予備設計のあとに意見を反映する機会があれば良いのだが、それ以降反映する機会がないのであれば、我々の意見はどこに行くのか、という感じである。

#### 岡崎市

- ・ 予備設計の段階では、幅員と荷重状況全て（高欄などの重さ）を決めることが必要。デザインについては前述の重さの範囲であれば選択が可能。8月から1～2ヶ月の猶予はあると思う。



## 事務局長

- ・ 場合によっては臨時で部会を開催することも予定する。

## 部会長

- ・ 橋については市民の一番関心が高い部分であることから、情報公開も含めて民意が反映された形のなかで進めることが重要である。

## 部会員

- ・ 本日の議題で2点避けては通れないと考えることがある。一つは桜を将来的にどうするかという今後の部会の議題であるのかどうか。もう1点は、潜水橋はイベント時に利用するがすごく狭い。また、改修する際には、もう少し外観を良くして欲しい。

## 岡崎市

- ・ 潜水橋については、本来、川の中にあっては認めてもらえないもの。拡幅については県との調整事項で協議を進めていく。桜の話も、河川の法律上流水断面を阻害するためよくない。本来は枯れたら再度植えることは難しい。岡崎市の特徴的な景観の一つであるため、市役所でも悩んでいる最中である。

## 事務局長

- ・ 現在、100周年事業課でも植樹の検討しており、診断調査をしている。今後、法的な部分をクリアしていくように検討していく。

## 部会員

- ・ 殿橋のたもとに四天王石像を設けるという案はどうなったか。殿橋のたもとは通行者や自転車で混雑するので、もし作るのであれば、新橋のたもとというアイデアもあるのではないか。

## 部会員

- ・ 殿橋の架け替え案がなくなったため、現在の殿橋への設置は岡崎市としても難しいと考えている。現在は新人道橋か、中央緑道に設置する事を検討中である。

## 岡崎市

- ・ 新橋のデザインに余裕があると言ったが、菱形や台形などに形を変えることは難しいので、ご承知おきください。

## 部会員

- ・ 高欄の話があったが、できるだけ視線を遮らないものが良いと思うが、仕様については検討が必要と考える。中央緑道について、他の部会員からも平和の話があったが、人がそこで楽しんでいる姿というのも平和の象徴になるのではないかと感じた。

## 岡崎市

- ・ 強度を確保する上での構造の課題をクリアしていれば、上部工のデザインはある程度自由度がある。

## 副部会長

- ・ 新人道橋幅について、16mでも20mでもテントの展開は、それなりに使われることになるので阻害しないと思う。しかし、人がいない橋というのは非常に寂しく、人がいることが人を誘引することにもなるので、段差をつくるなども検討していただきたい。四天王石像について、殿橋なら筋が通ると思うが、新人道橋だと根拠が薄くなる。中央緑道の籠田総門であれば理由が見つくと思った。

## 部会員

- ・ 四天王像の位置については色々とタブー無しで議論すればよいが、籠田公園の場所にするなら現在ある田中吉正像をどうするか、という話がある。
- ・ 新人道橋の幅については、副部長は先ほど提案された幅でよいということだが、大反対で、広ければ広い方がよいと思う。駅前の商店街で、あと少し幅があれば良いのに、という想いも何回もしてきた。予算の許す範囲で、20mができるのであれば20mにしてほしいというのが本音である。

## 事務局長

- ・ 別紙「【チラシ】岡崎城下家康公夏まつり」により、夏祭りの際のカヌー体験、河川清掃、殿橋左岸橋脚のライトアップ実証実験(8/3夜)等の案内をおこなった。

## ⑤ その他

下記のとおり今後の活動について連絡を行った。

『第2回乙川リバーフロント推進部会』の開催案内

日時：平成26年8月18日（月）14：00～16：00

会場：市役所西庁舎7階 701号室

ただし、次回の部会開催は日程調整があるかもしれない旨を説明した。

## 4 閉 会

事務局より閉会宣言。

以 上